

博物館だより



No.145

平成30年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

最後の朝鮮通信使展

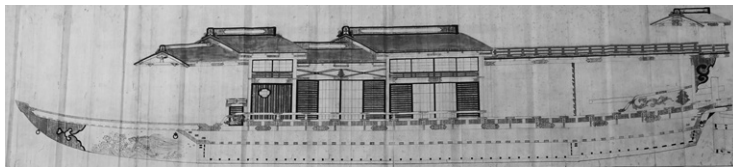
会期・11月20日(火)～12月24日(月)

開催中!

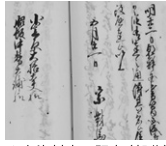
現在開催中のこの企画展は「小笠原文庫と関連資料でたどる、ラスト通信使」のすがた」とサブタイトルを設け、朝鮮通信使史上最後の使行(II交流)となった文化八年の事績を、小笠原文庫に遺される資料を中心にご紹介するものです。

そもそも小笠原文庫に通信使資料が残されたのは、このときの上使(幕府代表)を小倉藩六代藩主・小笠原忠固が務めたことによるものですが、その後の小倉藩が幕末の動乱で城を焼き豊津へ移転した事情に伴い、資料数が多いとはいえません。それでも当事者として残した数少ない記録が、行程を中心に最後の通信使の様子をよく物語っているという点で「世界の記憶」登録の評価点となりました。

実際に江戸～対馬間を往復した旅程の記録は、行路沿線の大名達を筆頭にその家臣は勿論、社寺・多様な庶民(庄屋や水主、商人など)など、通信使が国内の様々な地域や人々が関わって運営される一大外交セレモニーであったことを物語っています。本展ではそうした点を垣間見ながら、最後の通信使の具体的な姿をご紹介します。



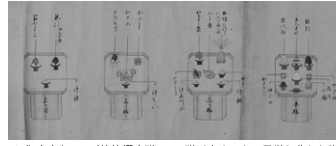
▲川御座船十歩一之図(大阪～京都間の往復に上使忠固が使用した川御座船絵図)



▲右資料中の記事(部分)



▲「世界の記憶」登録資料



▲御当座七五三(使節饗応儀。五の歳以上まである見栄え豊かな飾)

●主な展示資料

・「世界の記憶」登録資料5点

・登録外の朝鮮通信使資料

・朝鮮国書写(外交文書の控)

・御当座七五三(饗応料理図)

・川御座船図(上使搭乘船図)

●観覧料 大人 2000円

高校生以下1000円

●開館時間 9:30～17:00

●休館日 月曜及び祝日の翌日

◆講座教室・催し物ガイド

12月の歴史講座

〔漢詩紀行講座〕
12月1日(土) 9時30分

〔古文書講座〕
12月8日(土) 10時

〔古典かな講座〕
12月15日(土) 9時30分

〔みやこ学講座〕※現地見学予定/詳細別途
12月16日(日) 9時

※日程等変更となる場合があります。

※見学会等は別途ご案内します。

博物館で「楽習」始めませんか?

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館までお問合せください!

○博物館友の会

「史跡散策バスハイク」「歴史たんけんウォーク」等の学びの旅や楽習催事に参加できます。

○文化遺産ボランティア養成講座

町の宝をガイド&ガイドするスタッフを募集・養成する講座です。今からでも町外からでも大丈夫!

年末休館のお知らせ

博物館では館内整理と燻蒸作業のため、左記の期間休館いたします。この間の博物館および文化財業務に関することは、左記へお問合せ下さい。なお、新年は1月4日(金)から開館いたします。

・休館の期間
12月25日(火)～1月3日(木)

(29日以降は通常の年末年始休館)

・休館中の問合せ先
33-33115(豊津公民館)

10・11月の業務日誌から

10月7日(日)、観光まちづくり協会主催「台湾モニターツアー-inみやこ町」の中で永沼家住宅の見学が行われました。古民家の風情を今に伝える同住宅の落ち着いた佇まいを周辺の景色と共に堪能頂きました。

11月3日(土)、豊前国府跡公園で「第7回豊前国府まつり」が開催され、絶好のまつり日和の中、ステージ発表や出店等で賑わいました。地元国作区をはじめとする実行委のみなさん、お疲れ様でした!



▲午前中の部で元気なダンスを披露してくれたCPCの皆さん



▲永沼家にこれだけの数の外国人客が訪れたのは初めてとか

「文化のみやごづくり」プロジェクト 第6回みやこ町古墳まつり イベントレポート

— 記念絵画・作文コンクール最優秀作品&まつりスナップのご紹介 —

古墳をはじめとする郷土の豊かな文化資源を活かしたまちづくりを目指す学びの祭典「みやこ町古墳まつり（10/21）開催」。今年は「明治一五〇年」をテーマとした学習イベント（歴史たんけんウォーク・ミニコンサート・講演会）を開催しました。テーマゆかりの郷土の再発見で、また一つ町の魅力を見つめることができました。まつりにご協力いただいた皆さん、有難うございました！



▲入賞された皆さん、おめでとうございます！



▲グランプリ「みやこ町のしょうぶ園」育徳館中2年 坂井 鈴奈さん



▲犀川小6年 中村 夏彩さんによる最優秀作文の朗読

歴史たんけん作文 最優秀賞 未来へのタイムカプセル

犀川小学校 六年 中村夏彩

「お母さん。今日、学校の運動場で弥生時代の土器のかけらを発見したよ。なんと、黒曜石も見つかったんだよ。」
 去年の秋、学校の運動場で遺跡発掘体験をした。私たちの学校が再建されるため、遺跡である運動場を発掘することになったのだ。私は、土器のかけらのようなものを二つ見つけた。係の人に見せたら、「これは、弥生時代の土器のかけらだよ。」と言われた時、私は心がふるえた。なぜなら、弥生時代の土器なんて、歴史の本や教科書の中のものかと思っていなかったからだ。この私の手の中にあるものが、二千年近くも前のものなのか。そう思うと土器を持つ手もふるえるようだった。そんな私だから母への報告もきつと興奮していたにちがいない。この体験をきっかけに、私は遺跡や歴史に興味をもち始めた。

今年の夏、歴史がすっかり好きになった私に、母が、「私たちの住んでいる犀川山鹿地区からも遺跡が発掘されていたらしいよ。」と大ニュースを持ってきた。母が見せてくれた「博物館だより（平成十九年五月一日）」には、「みやこ町が誇る文化財・九州国立博物館に登場」とあった。しかも、「山鹿宮田遺跡出土品」という文字が書かれていた。私の中に土器を手にした時の興奮がよみがえってきた。すぐに博物館に調べに行った。

博物館では、次の四点について調べることにした。一つ目は、出土した正確な場所。二つ目は、その遺跡は何なのか。三つ目は、何時代のものなのか。そして四つ目は、その遺跡から何が分かるのか、である。早速、係の木村さんにお話を伺うと、「山鹿宮田遺跡」は、私の家の玄関からわずか十メートルほどしか離れていない場所だと分かった。そこから出土したものは、経筒という御経を納める筒を作るための鋳型だった。今から約千年前の平安時代のものである。毎日のように通っていたあの道路の下から、遺跡が発掘されたリップするようになった。経筒はいろいろ

いるな場所が発見されているが、経筒を作る鋳型の出土は、「山鹿宮田遺跡」が日本で初めてということである。鋳型から経筒をどのように作っていたかを探ることができたのは、当時の人の技術力を知る上で、とても貴重だったと思った。その鋳型が山鹿にあったということは、この辺りで、経筒を作る職人がいて、それを作らせる力を持った人が住んでいたのではないかと。父の先祖も職人だったのだろうか。いや、力を持つ方の人だったのだろうか。想像はふくらむばかりだ。

博物館に保存されている経筒は、直径五・六センチメートル、端に一センチメートルほどの覆輪状のふくらみがある。私はその経筒を見ながら、なぜ、平安時代に経筒を埋めることが全国的なブームになったのだろうかと考えた。

それを考えるために、平安時代についての本を図書館で借りた。すると、多くの本に、「平安時代の一〇五二年に『釈迦の死後千年が経つと仏教がすたれる末法の世に入る』という末法思想ができ、人々の不安や恐れは大いに高まった。」「五十六億七千万年後に弥勒菩薩が釈迦に代わって民衆を救う。」と書かれていた。当時生きていた人が、釈迦の教えである経筒を経筒に入れて埋め、五十六億七千万年後の後世へ伝えていくことが人々の不安をなくす大きな功德になると考え、ブームになったと予想できた。その始まりは、なんと、あの有名な藤原道長らしい。京だけでなく、この犀川山鹿地区にまでブームが起きていたのは、驚くべきことである。経筒や鋳型からこんなにもいろいろのことが想像できることが分かった。遺跡や歴史がますますおもしろいと思うようになった。

「山鹿宮田遺跡」は、平安時代という千年前を生きていた人から、後世を生きる人へのメッセージを伝えるためのタイムカプセルでもあると思った。五十六億七千万年後という気の遠くなるような未来まで経筒を伝えようとした人々の思いがこめられているのだ。私は、遺跡が見つかった場所のアスファルトの上にもう一度立ってみた。靴の底からじいんと何かが伝わってくるようだった。

「歴史はずっと続いている。」
 「山鹿宮田遺跡」が私に語っているように感じた。

まつり会場で見られた、新たなふるさとの魅力の「(再)発見と学び」・「ゆかりの芸術・文化」鑑賞の様子



▲ウォークでは黒門前で即興ガイドを頂きました



▲育徳館高校管弦楽部の演奏。ホールがコンサート会場に！



▲育徳館・小正路先生による講演「錦陵人物誌150年」